

村山写真室

生活
と
遺影



2025

9.20(土) ▶ 12.7(日)

時 間 ◆ 午前9時より午後5時まで
(最終入館 午後4時半まで)

休館日 ◆ 会期中無休

入館料 ◆ 一般・高校生以上 510円 (460円)

小中学生 250円 (200円)

()内は20名以上の団体料金 諏訪6市町村の小中学生無料

八ヶ岳美術館
【原村歴史民俗資料館】

主催＝八ヶ岳美術館、原村、原村教育委員会

後援＝富士見町教育委員会

協賛＝スワテック建設株式会社、諏訪信用金庫、株式会社イッミ
たてしな自由農園

協力＝じゃんびんぐまうす、MORITSUGU、富士見 森のオフィス

生活と遺影

「村山写真室」は、長野県諏訪郡富士見町を拠点とする写真家・村山理世による活動です。村山は写真の芸術性だけでなく、私たちの日常に飾られる「モノ」としての写真のありようにも関心を寄せ、写真が生活にもたらす効用を研究し続けています。

その実践では、写真の工芸的側面が重視されます。ポトリートを焼き付けた和紙、自作の真鍮の写真立て、木工職人と製作する栗材の額縁——どのような素材や形を用いることで、写真とそれを見る／手に取る身体とのかかわりが豊かになるのか。その問いとともに、写真の物質性をめぐる探求が展開されます。



人々の喪失の経験に焦点を当てた「物の遺影」シリーズでは、故人の遺品や依頼者が手放すことになった私物の姿が残され、肖像に限定しない遺影のかたちが提示されます。様々な喪失を生きる私たちにとって、遺影は死者との確かな接点です。流れ続ける現在と止まったままの過去が日々のなかで滲み合い、ヴァルター・ペンヤミンが提起した「触覚的な受容」が生活者と写真の間で実現されることを、村山写真室は企図しています。

このたびハケ岳美術館では、村山写真室の撮影活動をご紹介します。様々な生活に溶け込む制作物が、現代の写真という文化を見つめ直すきっかけになれば幸いです。

Instagram



関連イベント【鼎談】

村山理世(村山写真室)×石垣純子(mountain bookcase 店主)×平林杜太(ハケ岳美術館 本展担当)

日時 ◆ 2025年9月21日(日)午前11時より正午まで

会場 ◆ ハケ岳美術館 企画展示室1

参加費 ◆ 無料(入館料別途) 予約不要



ハケ岳美術館は自然と調和し合う美術館として、建築家・村野藤吾により設計されました。

【常設展】

美術作品：清水多嘉示(彫刻・絵画)、津金雀仙(書)

考古学資料：国指定阿久遺跡をはじめ、村内の遺跡から出土した縄文土器・石器を展示

ハケ岳美術館

【原村歴史民俗資料館】

住所 | 〒391-0115 長野県諏訪郡原村17217-1611

Tel・Fax | 0266-74-2701

メール | info@yatsubi.com

ウェブサイト | <https://yatsubi.com/>



*中央自動車道

諏訪南インターから7km

小淵沢インターから14km

*電車・バス(茅野駅/富士見駅から)

バスの運行は季節や曜日によって変動します。詳しくはお問い合わせ下さい。